

心豊かな子どもの育成

～自他との対話の中で考えを深める道徳の授業づくりを通して～

研究の概要

1. 対話の中で考えを深める道徳科授業づくり
2. 小学校・中学校・地域が連携した道徳的実践活動

Point ① 対話の中で考えを深める授業の工夫



◇考え、議論するための工夫

- ・授業の流れがわかる板書の工夫
- ・全員の考えを見える化
Googleドキュメント
Google Jamboard
- ・自分の心を伝えるメーター
- ・役割演技



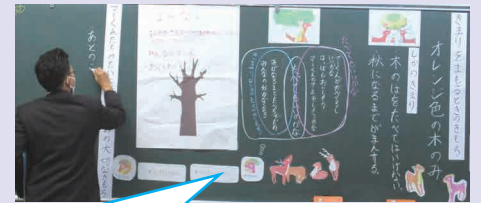
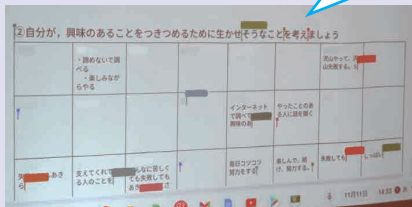
5年
「思いやりの心」
Jamboard
を使った親切
メーター

6年「光をともした魔法の薬」ドキュメントを使って意見把握

1年「だれも見えていない」教師との役割演技



心豊かな子ども



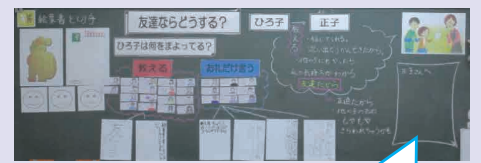
2年「オレンジ色の木のみ」板書

Ps7L15	Ps7L10	Ps7L6	Ps7L3	Ps6L8	Ps6L6	Ps6L4	ページ	⑤
家路	やむを得ず	電報	酒場	確信	夕刻	故郷	言葉	ロレンスの友
自分の家へ帰る	せめても	電報	酒を飲	信じて	日ごと	生れた	意味	意味調べ①

6年
「ロレンスの
友達」
意味調べ



6年「光をともした魔法の薬」
チーム・ティーチングでの
連携



心の数直線

3年「絵葉書と切手」板書



4年「クラスたいこう
全員リレー」心の数直線

◇長文資料の事前学習

- ・教材文が長すぎて1時間では扱いきれない！言葉の意味がわからない！
- ↓ 資料や児童実態に応じて
家庭学習での意味調べや読み込み



- ◇チーム・ティーチングでの連携
- ・ねらいを共有化し、机間指導への協力
- ・子供たちの気づきをメモにして担任へ

Point ② 小中連携・地域連携を通じた学び



◇西桂町教育協議会の取組

学ぶ力づくり研究部

- ・小中連携の研究
- ・小中一貫した連携記録の作成



学級づくり研究部

- ・児童、生徒、保護者へのアンケート調査及び分析

授業づくり研究部

- ・道徳の授業研究
- ・小中での参観授業の交流

◇小中学校が連携した道徳的実践活動

小中あいさつ運動

小中学校の代表者が小学校や中学校を訪問し、一緒にあいさつ運動を行う活動。あいさつを通じた心の交流に取り組んでいる。



6年三ツ峠登山（秋の校外学習）

三ツ峠中腹にある八十八大師の前かけ交換を小中学生が協力して行っている。前かけを心を込めて作るのは中学2年生。そして、その意志を受け継ぎ、前かけを交換するのは、小学生の役割。郷土の史跡を大切にすることを共有している。



主体的に学び、思いやりの心を大切にする生徒の育成

～考え、議論する授業実践を通して～

研究の概要

1. 対話の中で考えを深める道徳科授業づくり
2. 小学校・中学校・地域が連携した道徳的実践活動

Point ① 生徒の実態（課題）を意識した授業づくり



子供が生まれたときの親の気持ちを議論した後、自分に宛てられた**家族からのメッセージ**を読む。

地域の駅舎の**リノベーション計画**に**参画**し、郷土を愛する心について議論している。

道徳アンケートの結果をもとに身近な動物の命について議論している。

職員のグループ協議では、**生徒の様子**を主として議論している。

Point ② 小中連携・地域連携を通した学び



○地域に根ざした道徳的実践活動

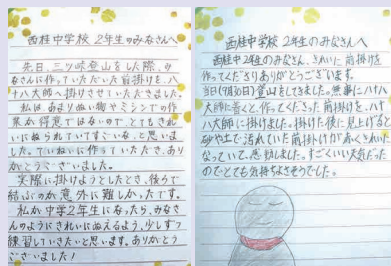
道路横断後の、ドライバーに対する丁寧なお辞儀は、生徒が上級生の姿から学び自発的に行っている。この朝の光景から、地域の人々の幸せな1日が始まる。



○小中学校が連携した道徳的実践活動



夏季休業中に、小中学校職員が**合同講演会**に参加し、**発達段階を踏まえた道徳教育**について学習した。



地域の人が40年以上前より作っていた三ツ峠八十八大師の前かけを、中学2年生が家庭科の授業で製作する。その前かけを小学6年生が秋の校外学習で古いものと交換する。小中学生が連携して地域の**伝統文化を継承**している取組。

小学生が中学生に宛てたお礼の手紙

自然や人と共生し、主体的に社会参画できる生徒の育成

学校の紹介

1. 創立105年を迎える峡東地区の拠点校
2. 校訓「至誠無息」のもと、知・徳・体のバランスのとれた人材の育成を目指している

実践① 道徳性を育む「SDGs」探究活動

本校では総合的な探究の時間を中心に、持続可能な開発目標である、「SDGs」について全校生徒が理解を深めている。特に1年生に対しては、企業、新聞記者、大学生、スポーツクラブ運営者などによる幅広い分野の講演会や校外見学を年間を通して計画し、環境問題や人権問題をはじめとするSDGsの17の目標について継続的に学んでいる。それらの目標が相互に関連し合い、同時に解決が可能な場合も多いことなどを知ることができる。さらに、探究活動の中で「私たちができること」をグループで考えてまとめ、発表したり廊下に掲示したりして共有し、全校生徒がSDGsの目標を意識できるようにしている。



実践② 地域の暮らしを支える活動への参加

規則やマナーをしっかりと身に付け、交通安全や犯罪防止についての意識を高めることを目的とした講演会を行うとともに、地元の警察署や団体と連携して各種の啓発活動に参加している。立場の違う幅広い年代の人たちとの活動を通し、今高校生としてできることや将来自分たちが引き継いでいかなければならないことを考えていく。また、祭りやボランティア活動など地域の行事に積極的に参加し、少子高齢化で衰退する地域の活性化に取り組んでいる。



全国地域安全運動



20歳未満飲酒防止キャンペーン



一宮町金田区ふれあい公園祭り



実践③ マナーアップ週間、PTA合同街頭交通指導・あいさつ運動

本校では、年間5回のマナーアップ週間を設定しており、部活動所属部員による生徒昇降口でのあいさつ運動と、生活・防災委員による駐輪場での駐輪指導を行っている。また、9月20日、21日には、PTA理事との合同街頭交通指導・あいさつ運動が行われた。学校周辺5か所の横断歩道等で指導にあたる理事と教員が生徒と元気にあいさつを交わし、交通安全、マナーの向上を呼びかけた。



学校の紹介

本校は韮崎市にある肢体不自由特別支援学校である。隣接するあけぼの医療福祉センターと連携し、教育と医療・福祉が密接に結びついた教育活動を行っている。今年度は、小学部から高等部まで60名の児童生徒が在籍している。「いきいきと」を校訓とし、子供たちそれぞれの実態に応じた教育課程を編成し、まわりの人や物とのやりとりを豊かに広げ、「生きる力」を育んでいくための道徳教育実践に取り組んでいる。



実践① 小学部の取組

国際理解

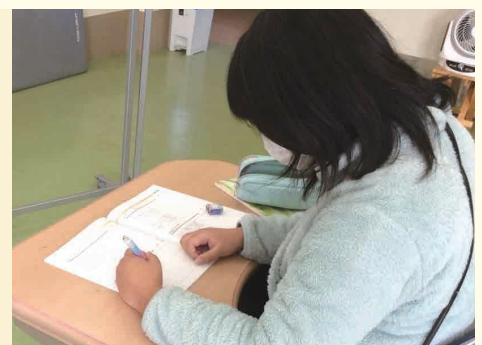
準ずる教育課程では、教科書を使い、「自分自身のこと、集団生活、社会との関係、いのちや自然」などの学習をしている。生活経験の少なさや友達関係の薄さもあり、実感を伴って理解することが難しい内容では、ロールプレイや教科書のイラストを紙芝居風にアレンジして、イメージしやすいように配慮している。国際理解では、外国籍の友達の国について紹介し合ったり、海外生活の経験をもつ先生のお話を聞く機会を設けたりしている。



実践② 中学部の取組

学んだことを一生懸命、まとめている様子

準ずる教育課程では、道徳の教科書等を使い、自主や自律、生命の尊さ、思いやりや感謝の心、伝統や文化の尊重等をねらいとして学習に取り組んでいる。生命についての学習では、音源を使って赤ちゃんの泣き声を聞くことで、声の大きさや激しさに驚き、生命の強さを感じることができた。授業の最後に振り返りの時間を設けることで、その日に学んだことがどんなことであったか自分なりに整理することで理解を深めた。



実践③ 高等部の取組

ロールプレイの一コマ

知的代替教育課程では、ロールプレイングや読み物学習を通して、生徒の実態に合わせた課題やテーマに取り組んでいる。ある学級では、毎日5～10分の時間を設け、「相手の気持ち」や「社会のルール」、「気持ちのよい挨拶」等をテーマにしたロールプレイを教師が行い、生徒に○×で回答してもらったり、どうすればよいかを考えて話し合ったりしている。また、月の目標を決めてその振り返りを行うことで、自分自身を見つめ直す機会にしている。

